

第3回第6次総合計画等策定委員会議事録

1 開催日時

令和2年11月27日（金）午後3時～4時30分

2 会 場

真室川町役場3階会議室

3 出席者

委員9名（3名欠席）、事務局（企画課）

4 議 事

（1）前回委員会の指摘事項等について

① 人口ビジョン（案）

質疑なし

② 町の将来像（『幸せと生きがいを感じる町 真室川』）

- 「幸せ」は人により尺度が違う。重点施策の移住・定住の部分にある「住みたい・帰りたい・訪ねたい」のように、皆が同じところを向いていけるようキーワードが副題として盛り込まれていれば尚いいのではないか。

☞（事務局回答）

住民アンケートでも、幸せの基準として重視するものや現在どの程度幸せを感じているかは、年齢層によってさまざまであった。おっしゃるように幸せの尺度は人それぞれであるが、町民みんなが最後には「ここで幸せだ」と言えるものを持って暮らしていける町というのが普遍的な目標であろう、というのが策定本部での意見である。

副題については、いただいたご意見を踏まえながら作成を進め、あらためて皆様からご意見を頂戴することとしたい。

- 大きな視点で「幸せ」というものを考えた場合、この町で生涯を終えること、という意味合いが強いように思う。ここで暮らしてここで幸せになる、「終の棲家」のような考えをもっと押し出してもいいかもしれない。「幸せ」だけではテーマとして大きすぎるので、もう少し具体性が必要ではないか。

☞（事務局回答）

将来像と副題だけですべてを表すのは難しい。いただいた様々なご意見については、計画全体の文章の中にキーワードを散りばめるように反映させていきたい。

- 「幸せ」の受け止め方が人によって違うのは仕方ない。それでも総体として幸せだといえる町であれば良いのではないか。個人的には地域との「つながり」、そして「感じる」ということがポイントではないかと考えていた。町の案にはそういった部分が含まれており、これでいいと思う。
- 総合計画の中でも特に町民の目に付くキャッチフレーズにしては、漠然として弱いように感じる。これから町が一番力を入れていくのはこれだ、というものを前面に出していくべきではないか。

☞（事務局回答）

ご指摘の点については、副題で示すこととしたい。

（２）総合計画等基本構想（案）について

- 基本目標は、前回より凝縮された書き方になった分、ぼやけた印象を受ける。押しつけがましい表現にも感じられて、以前の方が言葉のチョイスとしては良かった。どういう経緯でこのように整理されたのか。

☞（事務局回答）

10年間の大きな方向性を示す基本構想と5年間の具体の取り組みを示す基本計画が同じような書きぶりにならないように、しっかり区別する意図で調整させていただいた。これで確定ではないので、いただいたご意見を基に再度検討させていただく。

（３）基本計画及び総合戦略（案）について

- 近隣市町村との関係性、特に最上北部の中心的役割を担っていく上での真室川町の優位性や重要性といった視点を盛り込んでほしい。近隣市町村との公共交通機関の接続の向上についても考えてもらいたい。
- 少子高齢化の進行をいかに緩やかにするか、という部分で対策に力を入れてほしい。結婚や出産のサポート、空き家の利活用、災害対策など、個別の重要な課題がたくさんあるが、様々な情報を取り入れながら真室川町に合った対策を考えてもらいたい。簡単にはいかないことばかりだが、頑張ってもらいたい。

- 真室川は安全で暮らしやすい町。都会で仕事をリタイアした人がＵターンし定住してくれば、その子どもたちがこちらに来る機会も増え、移住に向けた動きが広がり人口減少の抑制につながる。そういったアプローチとともに、移住者向けに空き家の活用を進めるなど、各種支援の充実を考えていただきたい。
- 観光の視点で考えたとき、食や癒しが大きなキーワードになると思うが、当町では特に食が充実しておらず、特産品を食べる場所もない。食に特化した支援を掘り下げてほしい。
いま種を蒔かなければ 10 年後に芽が出ない。幅広い意味での観光の充実により、空き家の利活用や農業との連携による産業振興などにもつなげていきたい。
- 細かい部分は後ほどメールするが、それ以外で 3 つ申し上げたい。
農林商工業の人材確保・育成について、特に農業ではネガティブなイメージを払拭できていない。若い人が農業を始めても、多くは 3 年以内に辞めてしまう。小さい町だからこそ柔軟に対応できる部分もあると思うので、ただ人材を募集するだけでなくプラスアルファで何ができるか、という視点を持ってほしい。
教育の分野について、山形県全体の学力は全国平均よりやや下にある。指標については、生徒を対象としたアンケートだけでなく客観的な数字で全国平均より何点上を目指す、といったことをぜひ取り入れてほしい。
障がい福祉の分野について、専門職とのつながりを重視した内容になっているが、今は市民ボランティアや一般市民など素人による支援が目まぐるしく行われている。もっと視野を広く持って、そういった資源も活用することを考えてほしい。
- せっかくの計画を町民にどう PR していくか。インパクトのあるキャッチコピーでなければ若者の目に留まらない。町民にしっかり見てもらえることが一番大事である。
- 周知方法が大切。若者の目に留まるような状況と若者に見てもらえる内容を作る必要がある。今は地方に来たいと考える若者も多い。どの自治体でも工夫して若者を呼び込もうとしている中で、真室川町が埋もれてしまわないためにはインパクトが必要。
前にも言ったが、他の町から来る人への住宅の提供に苦勞している。空き家バンクも登録件数が少ない。住宅問題は、真室川に住みたいけれどやっぱり行けない、という大きな原因になってしまっていないか。対策を強く要望したい。

- 全体的に若者を意識した部分が多いように感じたが、高齢者が4割以上を占めるこの町では、高齢者の雇用などの視点も必要ではないか。
どの施策も大切だが、その中でも「真室川町といえばこれ」といえるもの、特に力を入れている部分や柱になるものが見えた方がいい。
- 『幸せと生きがいを感じる町』という将来像を掲げるならば、この計画・戦略を通じて、町民がどのように行動しどのように幸せになっていくのか、ということを説明する必要があると思う。他にはない、真室川でしか実現できない幸せ、というものもあるのではないか。文章として掲載しなくても、そういう視点を持って考えてほしい。

(4) 今後のスケジュールについて

質疑なし

以上